第３章　実施項目

１．第４次南区地域福祉活動計画　体系図

基本理念	基本計画	実施目標	実施項目と主な内容	実施事業・活動名
一人ひとりが尊重され、必要とされる南区の実現に向けて	南区の自慢、宝を見つける～「魅力ある誇りある愛着ある南区」だとみんなが思えることを目指して～（A グループ）	地域に関心のない人も巻き込み、地域住民みんなをつなげる	**No．1　地域の魅力を発信し住民を地域デビューにつなげる** 地域の魅力を発信する企画を実施し、活動の担い手候補となる人と地域資源をつなげます。	南区の「自慢・宝」探し！
			No．2　ここバリすぽっとネットワーク ここバリすぽっと同士が交流会等を通じつながることで、困っている人がすぐに相談しやすい環境づくりを目指します。	「ここバリ」作戦会議
	絆づくり（B グループ）	支えあう心をはぐくむ人をつなぐ・地域をつくる	**No．3　共に生きるつながりの仕組みをつくる** 普段のくらしの中で支えあうことを目指し、大人から子どもまで、お互いを知り、困りごとをみんなで話し合える場や機会を設けます。	ふくしの心を学ぶ
				つながりの場づくり
				「地域のみんなで話す会」の開催
			No．4　地域の担い手と活躍の場をつくる 地域活動の担い手増加と誰もが活躍できる地域を目指し、「ちょボラ」の推進をします。様々な企画を検討、開催し、気軽にボランティアに参加できる仕組みをつくります。	「ちょボラ」の推進
	つながりたい つたえたい つづけたい 確かな情報（C グループ）	つながりたいと思っている人を発掘する 情報が届かない人へあきらめずに働きかける	**No．5　今ある情報が伝わる仕組みについて整理する** 現状の情報発信方法（広報媒体）や南区で取り組まれている具体的な事業・イベントについて、現状を把握し、課題を明確化することで、より効果的な広報方法を探します。	情報の「取扱い説明書」づくり
				現事業・イベントの広報方法の模索
			No．6　情報の効果的な伝え方をまとめる 情報を必要な人に適切に伝えるための方法や仕組みを検証し、わかりやすく効果的な発信方法にチャレンジします。	情報の伝え方の仕組みのまとめ

2．実施項目

地域に関心のない人も巻き込み、地域住民みんなをつなげる（Aグループ）

実　施　項　目	No.1　地域の魅力を発信し住民を地域デビューにつなげる				
実　施　内　容	**実施事業・活動名**　南区の「自慢・宝」探し! **概要** **〇ターゲット層の調査・分析** 今後地域の担い手として期待する若い世代（４０～５０代）を地域につなげるため、この世代をターゲット層とし、生活における興味・関心や南区に住んでいて感じること等について調査します。その調査結果を分析してターゲット層が求めているもの、ターゲット層にとっての南区の魅力・利点を抽出します。 **〇ターゲット層に向けた南区の魅力=「自慢・宝」の啓発** 若い世代にアピールする、南区の魅力について発信する方策を検討し、発信します。 **〇ターゲット層に向けたイベント等の実施** ターゲット層にとって魅力のある南区の資源（場所・人・企画他）を活用したイベント等を検討し、企画・実施します。				
年度別進行状況	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
調査・分析	グループインタビューを中心とした調査･分析	南区の魅力抽出			
「自慢・宝」の啓発		魅力発信方法の検討	より広い方策の検討を続けながら発信	→	→
イベントの実施		イベントの検討、実施	他の企画との連携を探りつつ実施	→	→

南区イメージキャラクター Mioo（ミオー）
© なごや南区 D000013

けいかくコラム①

南区の「自慢・宝」を伝える区役所のとりくみ紹介!

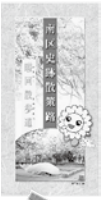
南区では今までに、名所や旧跡めぐり等の南区の魅力を区民の皆さまに伝えるさまざまな事業に取り組んできています。

そこでここ最近の取り組みについて、南区役所地域力推進室の木下真綸（まりん）さんに聞いてみました！※内容は令和元年度時点のものです。

1. 歴史・まちめぐり

南区史跡散策路&暇回（ひまわり）散歩道

「桜田勝景跡と古墳めぐり」をはじめとした５つのコースがある史跡散策路、「歴史と緑のみち」をはじめとした３つのコースがある暇回散歩道。南区の史跡や自然、街並みを感じながらウオーキングすることができます。



⑴東海道まち歩きの書

旧東海道が通るまち南区。旧東海道周辺の見どころやおすすめのウオーキングコース、南区の歴史に関するコラムなどを紹介しています。

✧「南区史跡散策路＆暇回（ひまわり）散歩道」「東海道まち歩きの書」は南区役所地域力推進室窓口や南区公式ウェブサイトで配付しています。

⑵東海道謎解きウォーク

(2) の「東海道まち歩きの書」を使って旧東海道を巡るウオーキングイベントを開催しています。

2. 花と笑顔であふれるまちづくり

区の花ひまわり事業

区内の保育園児による笠寺公園でのひまわりの種まき体験や新小学一年生などへの種の配布、区役所周りでのひまわりの植栽や写真展などにより、南区を区の花ひまわりでいっぱいにすることを目指しています。

また、区内関係公所（署）においてもひまわりを育成していただいています。

学区の花事業「学区に花を咲かせよう」

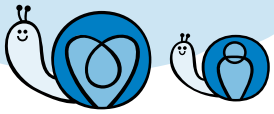
南区全18学区にそれぞれ「学区の花」を定めています。各学区の花をはじめ、南区が花であふれるように各地域での植栽活動を支援しています。

担当者の思い

普段の生活では、町の歴史や整備された花壇はあまり意識をされないと思います。
いつもと違う視点で町を歩いてみると新たな発見があるかもしれませんね。

南区役所地域力推進室主事 木下真綸さん

今回ご紹介した南区の取り組みを活かしつつ、新しい形の「南区の自慢・宝探し」を行っていきたいと思います！



地域に関心のない人も巻き込み、地域住民みんなをつなげる（Aグループ）

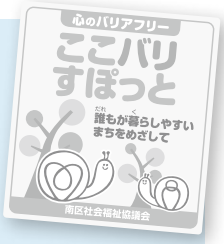
実施項目	No.2　ここバリすぽっとネットワーク				
実施内容	**実施事業・活動名**　「ここバリ」作戦会議 **概要** 南区独自の取り組みである福祉協力店「ここバリすぽっと」同士で交流し、情報共有や店舗の PR と地域活性化・福祉啓発を一緒に行える企画について検討するための話し合いの場をつくります。また店舗の特徴を活かして、地域で困りごとを相談しやすい環境づくりについて考えます。				
年度別進行状況	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
作戦会議立上	メンバー店舗募集・立上	会議の定期的開催・メンバー店舗募集	→	→	→
企画検討	社協事業・行事におけるここバリ PR 企画検討・実施	→	→	→	→
地域の困りごとを相談しやすい環境づくり		会議内で検討	→	→	→

けいかくコラム②

「ここバリすぽっと」って何？

～名古屋一!の福祉協力店のしくみ「ここバリすぽっと」の誕生から現在～

このステッカーが目印！

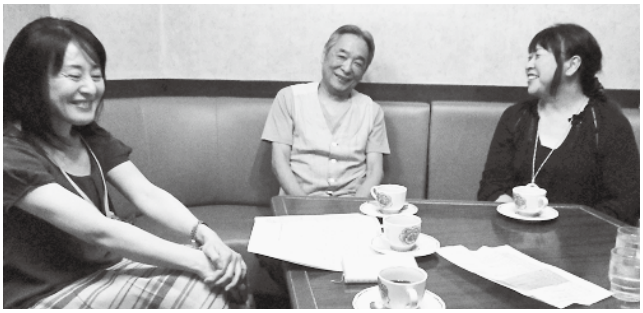


「ここバリすぽっと」とは？

「ここバリ」とは「こころのバリアフリー」の略称。建物の構造がバリアフリーになっていなくても、ちょっとしたお手伝いでバリア（障害）がなくなることがあります。

南区では「こころのバリアフリー」の意識を持って、「誰にでも優しい拠点」と宣言してくださるお店･施設を「ここバリすぽっと」という名称で募集しています。

『福祉とか関係ないんだよね、相手の気持ちに立って考える、お店の人ならみなさんごく自然にやってる、そういう気持ちをどう表していくかってこと』と伊藤さん。本笠寺駅前の「コーヒーパーラーミハル」の店主で、愛知県喫茶飲食生活衛生同業組合の常務理事。ちなみに「ミハル」はここバリすぽっと2号店です。



左から勝見氏、伊藤氏、濱田氏

ここバリすぽっとは、第2次計画の事業として平成21年度にスタート。当初は、高齢者や障がい者が気軽に外出できる環境づくりを目的に、段差やトイレについて、柴田商店街等で店舗に聞き取りを始めました。すると各店舗が、トイレや自転車の空気入れを貸したり、心配な方へ声掛けをしたりと、お客様に様々な心遣いをしておられることがわかってきました。そこからこんな「人にやさしく、人がやさしいお店」が増えれば、まち全体が人にやさしいまちになる。そんな店舗のネットワークを作れないか、という構想がふくらんできました。そこで、障がいがあるお子さんの母親として、濱田さんが日ごろから念願している「こころのバリアフリー」を、省略し、これに「すぽっと」をつけて、地域のやさしいお店や場所を「ここバリすぽっと」として認定していこう!ということになったのです。

『基準を押し付けにせず、何かできるかをお店自身に考えていただくことにこだわりました。とにかく思いのあるお店を認定したくて』と言う当時の担当者勝見主事たちがまとめた、ここバリすぽっとの認定基準は今も変わりません。①お困りの方に手をさしのべます　②情報を伝えます　③地域の拠点になります　この3つです。そこからお三方はじめ関わる皆さんの大活躍で、まずキックオフイベントをイオンモール新瑞橋（すぽっと1号店）で開催、その後伊藤さんが商店街組合の代表をしておられたこともあり、商店街を拠点にすぽっとはどんどん広がっていきました。

今後のここバリすぽっとについては、「ここバリすぽっとになってよかった、とお店が思えるような取り組み」「ここバリすぽっととしての連帯意識を感じられる何か」ができるといいね、という話が…そしてだんだんとここバリすぽっとを含む、南区全体の話になってきました。伊藤さんが、他の区から来た人と近所を歩いていて、何気なくスーパーの店員さんと話したりすると驚かれるそうです。『自分にとっては普通のことなんだけどね』と伊藤さんは笑いますが、南区はこのように、知らない人とも自然に話ができる、人と人との垣根が低い地域…だからこそここバリすぽっと活動ができているのかもしれません。こういった良さを、南区に住んでいる方々は案外気づいていない。その「昔からある南区の良さ」を形にしていきたい、「南区は素晴らしい区ですよー」と言っていきたい。そして「南区の皆さんが持っている思い」を引き出していきたい、そんな活動の一環にここバリすぽっとがあるといいですね、と最後は「あふれる南区愛」で話が締めくくられました。

【ご協力】　伊藤　邦一氏（「コーヒーパーラーミハル」すぽっと２号店店主）
濱田智恵実氏（計画作業委員・南区手をつなぐ育成会会長）
勝見ゆり子氏（事業開始時担当者 現：名古屋市社協地域福祉推進部主事）

支えあう心をはぐくむ/人をつなぐ・地域をつくる（Bグループ）

実　施　項　目	No.3　共に生きるつながりの仕組みをつくる
実　施　内　容	**実施事業・活動名　ふくしの心をはぐくむ** **概要** 普段のくらしの中で、年齢や障がいの有無に関わらず誰もが支えあうための心をはぐくむため、地域・学校・企業と連携して検討し、福祉教育のプログラムの作成や企画の実施を行います。 **実施事業・活動名　つながりの場づくり** **概要** ・誰も孤立させない地域のつながりづくりをめざし、福祉施設や団体と連携し、今ある地域のつながりの場であるサロン等に参加できていない人でも参加できるような交流の場をつくります。 ・交流の場をつくりながら、様々な機関や団体が相互に連携できるような仕組みをつくります。 **実施事業・活動名　「地域のみんなで話す会」の開催** **概要** 地域のなりたい姿、または困りごとについて、地域の様々な役割を持つ方々、関係機関・団体や施設などが一緒に考える場をつくります。（地域課題解決型学区地域ケア会議）※「2019年度南区区政運営方針」にも③地域における福祉相談体制づくりとして掲載

年度別進行状況	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
ふくしの心を学ぶ	現状把握・調査	分析・内容の具体化	地域、学校と連携強化・実施	評価	施行・拡張
つながりの場づくり	サロン等把握・調査（課題抽出） 課題を拾う先駆事例の収集	分析・内容の具体化	実施	評価	施行・拡張
地域のみんなで話す会	実施学区の選定・調整・実施				全学区実施（支えあい事業実施学区含む）

けいかくコラム③

「災害を考えると、結局ふだんの暮らし（福祉）にたどりつく？」

令和元年は、伊勢湾台風発災から６０年。伊勢湾台風で甚大な被害を受けた南区では、地域の皆さんの防災に対する意識も非常に高く、防災活動も活発です。

名古屋市では、学区ごとに地形や災害リスク等の地域特性や地域の防災活動状況等を整理した「地区防災カルテ」を作成しています。地域防災の現状を把握し、課題を洗い出し、課題への取り組みを検討・実施してまたカルテに反映させることを繰り返し、災害時の対応力を上げることが目的です。

特に南区では、平成 30 年度からモデル区として、カルテを活用して、地域と行政（区役所・消防署）が、一緒に防災訓練や講習会等具体的な取り組みの内容を話し合い、実施しています。この話し合いにより、災害時に必要な事項が洗いだされ、安否確認やお住まいの方々への周知等についても検討が進んでいるようです。

私たち社協は、地域の皆さんに高齢者はじめ、気になる方々の見守り活動（「ふれあいネットワーク活動」）の拡大をお願いしていますが、防災に取り組んでいる皆さんは『災害のことを考えると結局高齢者や障がい者の避難をどうするかに行き当たる』『それには普段から様子がわかってないといけない…』と考えていらっしゃいます。つまり、入口は違うけれど目的は同じ…いえ本当は入口も同じなのかもしれません。地域福祉推進協議会の研修会のアンケートで、ある民生委員さんが『私の学区は台風津波で一番被害が多くなるところなのでつながりを強くして最小限の被害にしたい』と書いておられました。この学区さんでは、今、日ごろの見守り活動の取り組みを検討してくださっています。防災と福祉を同じ枠組みの中で考えていくことが大切なんですね。

先日、知的障がいのある方を支援する、手をつなぐ育成会の総会に参加していたところ、星崎学区の早川消防団長が『防災はまちづくり！防災を考えることは、皆さんのお子さんのことを考えることです。地域で一緒に考えていきましょう』と仰いました。まさに名言！防災も福祉もまちづくり、このフレーズを計画でも意識してやっていきたいです。

←１８学区の「地区防災カルテ」

支えあう心をはぐくむ/人をつなぐ・地域をつくる（Bグループ）

実施項目	No.4　地域の担い手と活躍の場をつくる
実施内容	**実施事業・活動名　「ちょボラ」の推進** **概要** 誰もが気軽にボランティアに参加できるよう「ちょボラ」（ちょっとしたボランティア）の講座やイベントなど様々な企画を開催し、地域の担い手を育成します。 ・「ちょボラ」という言葉を浸透させるため、マークやグッズなどを作成します。 ・既存の行事やボランティア講座・企画を活かし、「ちょボラ」イベントを実施し、ボランティアのきっかけと活躍の場を増やしていきます。また、参加者が地域の活動につながるよう検討します。

年度別進行状況	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
マーク・グッズ作成	マークデザインの検討 グッズ作成・活用	→	→	→	→
イベントの開催	今ある行事、一緒にできる企画の調査・検討	イベントの検討・開催	→	→	→

けいかくコラム④

実はすごいんです！南区のボランティア事情

今でこそボランティアという言葉を、よく耳にするようになりましたが、何十年も前からボランティアを続けているグループが南区にはいくつもあります。「支えあい・助けあい」のまち、地域活動が活発な南区は、ボランティア活動も盛んです。名古屋市内でも有名な、歴史のある伝説の（！？）グループが多数あります。

こうしたボランティアグループの魅力を伝え、ボランティアのすそ野を広げることを目的に、平成３０年度に「お試し！ボランティア体験講座」を開催しました。

うどん打ち、子ども達等への車いす・高齢者疑似体験等の福祉教育、手作りの布おもちゃを手作りして貸出・寄付、さまざまな困りごとのお手伝い、小修繕や網戸の張替え等々多彩な活動内容のボランティアグループが活動内容を紹介し、参加の方々に実際に車いす体験をしたり、うどん打ちの様子を見学し、うどんで作ったデザートを試食したりしていただきました。『区内にこんな活動をしている方がおられることに驚いた』『ボランティアのイメージが変わった』等の感想が寄せられ、グループに入会される方もおられました。

今回は、「たねの会」さんと「おもちゃ図書館ぴっころ」さんにインタビューしてきました。

たねの会の活動は４０年以上続いているそうで、月に２度、布のおもちゃを手作りし、展示、貸出や施設への寄付などを行っているそうです。

これほど長くボランティア活動を続けることが出来るのは、やはり楽しんでいるからだそうで、みんなで試行錯誤して作った遊具を見て感心してくれたり、子どもたちが楽しく遊んでくれることがやりがいになっています。

この楽しさを多くの人に味わってほしいと思い、手作り教室イベントを開催し布の絵本・遊具と会の活動の紹介をしています。『～ボランティアをすること・手作りの楽しみ・プレゼントのよろこび～をより多くの人に知ってもらいたい。』そんな代表さんの言葉が印象的でした。

会員のみなさんは楽しんで活動され、たねの会がすてきな居場所になっており、作品作りが出来なくなった後も気軽に参加できるようなグループを目指しているそうです。

とてもあたたかなメンバーさんばかりで、いつまでもいつでも来てよい居場所というところが長年活動が続いている秘訣なのかもしれませんね♪

「おもちゃ図書館ぴっころ」も昭和60年から長年続いているグループです。

子どもにおもちゃを無料で貸し出したり、遊びの場を提供したりするグループで、子どもたちに毎日いきいきと楽しく過ごしてほしいと思い活動されているそうです。

現在の会長さんがおもちゃ図書館の講演を聞いたことをきっかけに仲間と立ち上げたそうで、はじめは自宅から会場までおもちゃをリヤカーに乗せて運んだり、会場を予約するために朝の6時から順番待ったりして活動をしていたそうです。地道な活動と粘り強くおもちゃ図書館の必要性を訴えることで、まわりからの協力を得られるようになったそうです。

今では分館などを含め9つの会場で活動し、熱田区にも広がっているとのことです。

会員さん達の頑張りで現在のようなグループになったんですね。

今後も子どもたちの可能性を大切に、子どもと共に学び合えるような活動を継続していくそうです。

ボランティアといえば、大変なこと、立派な人がすること、と思いがちですが、４次計画では「ちょっとしたボランティア」略して「ちょボラ」、ちょっとしたことを自分のできるときにやれるボランティアを広めたい！そのために気軽にできる方法を考えたい！と思っています。

つながりたいと思っている人を発掘する/情報が届かない人へあきらめずに働きかける（Cグループ）

実施項目	No.5　今ある情報が伝わる仕組みについて整理する
実施内容	**実施事業・活動名**　情報の「取扱い説明書」づくり **概要** 現状ある情報発信方法（広報媒体）について、種類や性質などについて調査し、まとめ、情報を伝えるときに活用できる冊子をつくります。また、その中で既存の情報発信方法の課題を明らかにします。 **実施事業・活動名**　現事業・イベントの広報方法を模索する **概要** 南区で取り組まれている具体的な事業・イベントなどからモデルケースを選び、情報の伝わる仕組みに焦点を合わせてから、現状を分析し、課題を明確にすることで、より効果的な広報方法を探します。

年度別進行状況	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
取り扱い説明書づくり	広報媒体の調査	発行元への調査	説明書まとめ		
広報方法を検証する	モデルケース選定	イベント実施に合わせ分析・課題を抽出①	イベント実施に合わせ分析・課題を抽出②	イベント実施に合わせ分析・課題を抽出③	

つながりたいと思っている人を発掘する/情報が届かない人へあきらめずに働きかける（Cグループ）

実施項目	No.6　情報の効果的な伝え方をまとめる				
実施内容	**実施事業・活動名**　<u>情報の伝え方の仕組みをまとめる</u> **概要** No. 5、No. 6 での調査・分析結果をふまえ、これまでの広報方法の課題を、必要な情報を必要な人に適切に伝えるための方法や仕組みを検証し、わかりやすく効果的な発信方法にチャレンジします。				
年度別進行状況	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
情報の伝わる仕組み				分析・検討	まとめ

けいかくコラム⑤

「ちらしはどうしたら見てもらえるのか？」～情報を伝えることの難しさ～

みなさんは、必要な情報をどのように手に入れておられますか？広報なごや？インターネット？回覧板はよくご覧になりますか？ちらしをもらったら目を通しますか？

おそらく、年齢や生活形態によって情報収集の仕方は違ってくると思われますが、人は自分の興味のアンテナにひっかかった情報しか拾わず、そのアンテナも人それぞれです。もっといえば、情報を主体的に求めるのは、生活に意欲を持っている方です。こちらから見て、この人にこそ情報が必要だ！という方に限って、情報収集に全く興味がないのです。いったいどうしたら届けたい情報が届けたい人に届くのか、これは永遠の命題といっても過言ではありません。

この話題でよく結論になるのは「結局一番強いのは口コミ」「チラシだったら友達や信用している方からの手渡し」です。果たして本当にそうなのでしょうか？そうだとして口コミはどうしたら広げられるのでしょう？それをこれから考えていかなければ…。

Aグループの紹介

私たちAグループはボランティアさんを中心とした10名の委員（名簿は下記のとおり）で取り組んでいます。

月に１回の会議では毎回会議前にアイスブレイクを行い、話しやすい雰囲気を作ってから会議に臨んでいます！みなさんそれぞれが活発な意見を言ってくださり、毎回議論は盛り上がりを見せつつも、会議後半にまとめの意見を言ってくださる方々もあり、どんどん計画の形になってきました！

★はじめ…

仮テーマの「地域を知る」ではテーマが大きすぎてどこから手をつけていけばいいのか悩む…

★策定中…

「南区の宝、自慢」という言葉をきっかけに、地域を知ればよいのでは！？（中野さん、大橋さん）→地域の宝や自慢を見つける→それをきっかけにして新たな担い手を発掘するという方向へ結びついた！

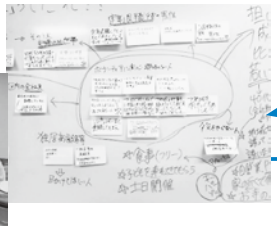
渡邉さんがビシッと端的なキーワードを発したり、野村さんが今一度話をまとめたりと、みなさんそれぞれの特性を活かしてだんだんと計画の形に…！

★策定後

私たちのテーマである「南区の宝・自慢探し」は、ぱっと見では福祉とはあまり結び付かないかもしれませんが、それを逆手にとって、今まであまり関わりのなかった地域や福祉に関心のない層をターゲットにしています。

今までの地域福祉活動計画とはまた違った、宝をきっかけに、みなさんが楽しめるような、興味関心が持てるような、そんな計画を実施していきたいと思っています。

みんなで検討！



ふせんに書いて貼ったり、ホワイトボードにまとめたり…

委員の名簿

氏　名	所　属	備　考
○渡邉　賢次	地域住民	公募委員
中野　義三	地域住民	
野村　幸子	地域住民	
加藤　恭久	ザ・たまり場	
荒川　博子	大磯民生委員児童委員協議会	
廣瀬　敏郎	家具転倒防止等ボランティア「かもくボラ」	３次活動計画推進サポーター
佐治戸孟子	日本ガールスカウト・災害ボラ	
◎大橋　幸子	みなみ家族会	
平松　千宜	南区役所民生子ども課民生子ども係	
飯沼　幸彦	南児童館	

◎→代表、○→副代表

委員の計画に対する意気込み

伝統の継承と
開発への挑戦
ｂｙ渡邉 賢次

何も無いから未来がある！
南区オンリーワン宣言！！
ｂｙ中野 義三

皆さんとのつながりをつくり南区の発展に尽くせるようにしたいです
ｂｙ野村 幸子

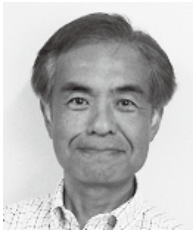
楽しく、生活が豊かになる地域づくりに挑戦
ｂｙ加藤 恭久

昔からの行事を守り、新しい家族に参加の呼びかけをする
ｂｙ荒川 博子

・耐震支援
・環境緑化、美化
・人にやさしい環境作り、住みよい街作りの活動
ｂｙ廣瀬 敏郎

ボランティア活動を通じて実りある人生を楽しむこと
ｂｙ佐治 戸孟子

非力ですが
頑張ります
ｂｙ飯沼 幸彦



「南区の宝」それを誇りに心を寄せ合い、美しい花を咲かせられるような希望ある南区に
ｂｙ大橋 幸子

先生からＡグループへのエール

「地域を知る」→「地域の宝や自慢をみつける」→「(地域福祉活動の) 新たな担い手を発掘する」という発想が素敵だと思います。“ウチの地域では●●が問題だ”という捉え方をしてしまいがちですが、“ウチの地域には、●●の問題に力を貸してもらえそうな人がいる”というふうに考えていくこともできると思います。地域の「宝探し」の成果を期待しています。

B グループの紹介

B グループは9 名の委員（名簿は下記のとおり）で取り組んでいます。

毎月みんなで熱い思いを持ち寄って白熱した会議を行い、計画がどんどん具体化しています。

委員のみなさん

会議の様子

メンバーの熱意

私たちＢグループの特徴はメンバーの熱意です！

時間を忘れて議論し、会議時間が延長してしまうことも。

メンバーのもりさんときたさんが会議に向け資料を作成し提案してくれたこともありました。

グループの絆

絆づくりをテーマにした私たちの絆はバッチリ♪お互いニックネームで呼び合っています。

また、有志で集まり被災地へ視察に行ったり、ボランティアを企画したりと、仲良く楽しく活動しています。

昨年は食事会を３回も行い、毎回大盛り上がりでした★

委員の名簿

氏　名（ニックネーム）	所　属	活動学区	備考
山田　清美（きよみちゃん）	クレマチス・たんぽぽサロン	大生	公募委員
北村　享巳（きたさん）	精神保健福祉ボランティアグループあいの会	菊住	
◎森川　進（もりさん）	桜学区区政協力委員会	桜	
小森奈保子（ケロロ）	地域子育て支援センター(宝保育園)	宝	3次活動計画推進サポーター
加藤　好美	地域子育て支援センター(菜の花保育園)	千鳥	
飯尾　成生（しげちゃん）	まちづくりアドバイザー	星崎	
阿隅　貴臣（あすみん）	社会福祉法人ニコニコハウス	春日野	
○濱田智恵実（チャーミー）	南区手をつなぐ育成会	白水　他	
大橋　加奈（かなちゃん）	南区役所福祉課福祉係		

◎→代表、○→副代表

委員の計画に対する意気込み

もりさん

「小さなつながりを見つけ大きなつながりをつくる!」以上を目標に頑張ります。宜しくお願いします。

きよみちゃん

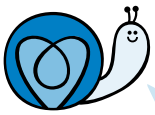
「つながる」「つながれる」「絆」がより大きく広がって、南区全域に浸透していき、且つ南区に住んで良かったと心からそう思っていただけるよう、頑張って活動計画作りに参画しています。

きたさん

「ボランティアをしたくなるようなシステム作りをしたいと思っています。ボランティアをする人、受ける人みんなが喜べるような、将来に残るシステムが出来ればと念願しています。」

チャーミー

子どもから高齢の方、障がいがある人もない人もみんながつながり「和」をもって人が優しく人に優しい南区を目指していきます♡



しげちゃん
（イラスト まいまい）

ひとりひとりを大切に誰もが必要とされる“南区”をみんなで力を合わせてつくっていきましょう。

あすみん
（変装中）

グループの活動を通して、ご近所同士のあたたかい繋がりをたくさんつくっていきたいと思います!

南区イメージキャラクター
Mioo（ミオー）

子どもから高齢者の全世代がつながりを持てるような南区をみんなで目指しましょう。

ケロロ
（イラスト あいあい）

体験、経験が大切。体験し、お互いを理解して、助け合うことが出来れば。

先生からＢグループへのエール

「絆」や「つながり」を感じにくくなってきている今だからこそ、皆さんがこれから取り組んでいかれる活動は、南区で地域福祉を進めていくうえでの基盤となると思います。

計画内容であげられている「地域のみんなで話す会」の中でどのような話題が出てくるのか、どのように広がっていくのか、5年間の成果に期待したいと思います。

Ｃグループの紹介

私たちＣグループは活動分野、内容が異なる９名の委員（名簿は下記のとおり）で、毎月一回会議を行っています。楽しんで取り組むことをモットーに、会議は活発な雰囲気で進んでいます。

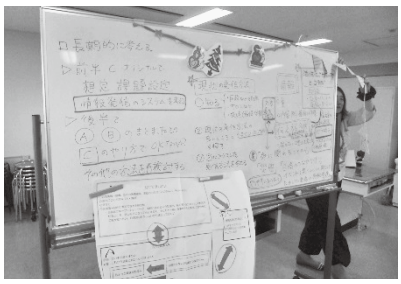
Ｃグループでは、グループとして取り組む内容について、目標や思いを確認・共有することを大切にしています。そのため、会議では自然と「考えを視覚的に整理する方」や「話し合いの流れを交通整理する方」などの役割分担ができ、テンポよく意見がまとめられました。

～策定までのＣグループの歩み～

難しい！

仮テーマだった「情報発信の仕組み作り」を受けてわたしたちは情報の種類について考え始めました。
・情報の受け手の種類。
・情報の受け手によって必要な情報は違う。
・情報や受け手によって効果的な発信方法は違う。

→ 情報発信の対象者を絞ることに!
①つながりたいと思っている人
②情報を必要としているが届いていない人
③情報を必要だと思わない人



委員さんのアイディアで実施目標決定！

↓

情報発信方法として以下の２つを調べよう！
・情報発信方法（媒体）にはどんなものがあるか。
・実際に南区で取り組まれている事業やイベントではどんな情報発信を行っているのか。

← ゆくゆくは…
効果的な情報発信方法を発見することにチャレンジしたい！！

委員の名簿

氏　名	所　属	備　考
酒井　正美	にりんそう・災害ボラ	公募委員
飯嶋　拓人	ヤジエセツルメント	
林　美樹	南区障害者基幹相談支援センター（名古屋キリスト教社会館）	３次活動計画推進サポーター
○畑　広美	ボランティア（高齢者疑似体験インストラクターもみじ）	
曽我　玲子	子ども家庭支援センターさくら・みなみ子育てネット	
佐藤　正章	みのり共同作業所	
◎福井　志保	ろばのこ療育園	
伊藤　和子	南保健福祉センター保健予防課保健看護担当	
辻野　和男	笠寺福祉会館	

◎→代表、○→副代表

委員の計画に対する意気込み

会議に参加している人全員でどのような手段、内容で情報を伝えていくかを考えています！未熟な部分がとても多いですが、様々なことを学ばせていただいています。

Cグループのテーマは私にとっても大きな課題なので、立場や年齢も違うみなさんとお話ししながら、南区のことを考えるとても貴重な時間にしていきたいです。

誰もが笑顔に満ちた南区でありますよう微力ながらスタッフの皆様と頑張りたいと思います。

あらゆる世代・あらゆる環境の人々にわかりやすく正確な情報が発信できる仕組み作りにチャレンジします。

サラリーマンの時の感動を思い出し、成果・結果を追及しながら、楽しい活動を皆さんと伴に体験したい。

気 心 響 口 命

よりたくさんの方々とつながり、楽しみながら南区のことを知り、そして伝えていきたいと思います！

Cグループは、南区の方々が住みやすい環境づくりが出来るように話し合いを行っています。

みんながイキイキと暮らせる街　南区！そのために全力で努力いたします！

スマートフォンが普及し、あらゆる情報が氾濫している今だからこそ確かな情報を伝えることが必要だと考えています。

絵：米さん

先生からCグループへのエール

　自分や自分の家族・知人などに何か問題が起こった時、どこへ相談に行けばよいのかわからない…。いろいろな情報があふれている今でも、本当に必要な情報を手に入れにくいことはあるのではないかと思います。また、地域の活動に新しい仲間を募る際にも、活動内容について発信していくことは重要になります。「情報発信の仕組みづくり」には時間がかかるかもしれませんが、少しずつステップアップしていくことを期待します。